

## 事業の背景・目的

牛久沼では近年特に、アカミミガメ（通称：ミドリガメ）の急増が深刻化しており、アカミミガメの急増と時を同じくして、ガマやヨシなどが減少し、きれいな花を咲かせていたハスもほとんど見られなくなりました。  
これら水生植物の減少は、植物の芽を食べるというアカミミガメの食害の影響が大きいと考えられることから、牛久沼の生態系の保全や水質浄化作用のある水生植物を守ることを目的として、事業を行ないました。

## 事業の内容

- ・アカミミガメの除去  
牛久沼に生息するアカミミガメを捕獲・処分し、牛久沼からの除去を行ないました。  
アカミミガメの除去は、構成団体である牛久沼漁業協同組合に依頼して、組合員等による張り網やカニ網の設置により実施し、網を仕掛ける人件費、船舶使用料、網賃借料等に係る経費を含めた1匹180円で当協議会が買い取る形で行ないました。  
なお、冷凍庫に入りきらないアカミミガメは、事前に設けた生け簀で生かしながら、安楽死のための冷凍庫に順次移し、処分を行ないました。
- ・アカミミガメ除去効果の確認  
アカミミガメの除去効果を確認するため、アカミミガメの個体の大きさ、捕獲地点の地図への落とし込み、ハスやガマ等の水生植物の定点観察を行ないました。

## 得られた成果

牛久沼の張り網漁が解禁となる令和元年9月1日からアカミミガメの捕獲を開始し、10月29日までの2ヶ月間で5,010匹捕獲・処分を行ない、牛久沼から除去することができました。  
捕獲したアカミミガメの個体の大きさは、約70%はミドリガメを含む小サイズとなっており、これが、大型個体が減少してきている影響なのか、それとも全体的に繁殖地になってしまっているということなのか、来年度も実施し、推移を見守っていきたいと考えております。  
ハスやガマ等の水生植物の定点観察は、9月13日に観察地点を設定し、3月24日に再度観察を行ない、半年間の変化を比較しました。水生植物の状況については、新芽の芽吹きは確認できたものの、まだ冬枯れの状態であり、正確な状況は確認できませんでしたが、3月の定点観察においてもガマ等の新芽が食害による影響を受けていることが確認されており、短期的な視点ではなく、中長期的に事業に取り組んでいくことにより、徐々に効果が見えてくるものと考えております。